

旭

印刷を支え加工を活かす

瓜破工場 物流部門
山本浩二

小学校からの幼馴染である橋野社長からの誘いを受け、一緒に働く運ぶとなった山本さん。現在にいたるまで着実に歩みを進めてきた山本さんに、会社の良いところや入社後の苦労、仕事に対する心がけについて話を聞きました。



——中途入社だからこそ分かる、旭紙工の良いところはなんですか。

仕事や作業だけでなく、すべてのことに関してスピード感がある会社だと思っています。全体的に社員の年齢層が若く、知識や技能の吸収も早い。一緒に働く仲間たちがぐんぐん成長していく様子を目にする機会も多くあります。また、新しいものを積極的に取り入れる姿勢がある点も印象的。最新設備を導入して仕事の効率化を図っていますし、労働環境もかつて私が会社を訪れたころに比べてより良いものになっています。これではないでしょうか。私たち社員とは違う角度で物事を捉える社長の方針を身近に感じられる点も、素敵だなと感じています。

——普段どのような仕事を担当しているのか、教えてください。

社内物流を主に担当していますが、同じ物流部門に人員不足が出た際はヘルプに入る場合もあります。状況によって依頼を受ける部署や任される作業内容は異なっていて、あるときはトラックに乗って製品を運んだことも。社内物流の業務では、

——最後に、今後の仕事の目標を教えてください。

他部署へ応援に出向く機会があるので、どの部門でもオールマイティーに、かつスピード感を意識しながら正確な作業ができるようになりたいと考えています。これまで培ってきた知識と経験を活かしつつ、仕事に励んでいくつもりです。

入社後に直面した困難を乗り越えた山本さんは、さらに活躍の場を広げるべく、新たな一歩を踏み出しています。掲げた目標の実現に向けて、ひたむきに邁進する強い意思は、旭紙工の発展にも大きく寄与していくことでしょう。



会社に到着した物資をトラックから運び出して各部門に運搬したり、倉庫の中を整理したりしています。

——これまで働いてきた中で、思いに残っている出来事はなんですか。

時間の流れについていくのに、一杯になっていたことです。作業全体のスピードがとても早いため、入社当初は一日が目まぐるしく進んでいくように感じられました。一生懸命働いてはいるのですが、どうしてもスピードについていけないよ

うに思えて悩んだ時期も……。さらに、知識不足で、製品の製造過程や必要な資材の適切な配置場所を完璧に把握できず、結果として作業効率が落ちてしまう場面もありました。助っ人として様々な部門に出向いて作業を行っているにもかかわらず、思うように作業スピードが上がらないので、一人でどうすれば良いか考え込む時間も多くなりました。

——苦労を乗り越えて今があるのですね。では、働くうえで心がけている点はなんですか。

どこのパートについたとしても迷惑をかけない働き方を心がけています。ヘルプに入っているのに、逆に足を引っ張るようでは本末転倒。業務の能率が落ちないようにするためにも、手伝いに向かった先の業務内容がある程度把握してから作業に取り組むようにしています。また、スピード感のある会社だからこそ、自身も働くときにはスピードと正確性を大切にしています。この2つを現実させるため、意識しているのは常に思考を止めないこと。どんな仕事の内容なのか、どのようにすれば効率良く工程をこなすことができるのか。そういった観点から物事を考

え、より質の良い働き方ができるよう、日々努力を重ねています。

——お休みの日はどのように過ごしていますか。

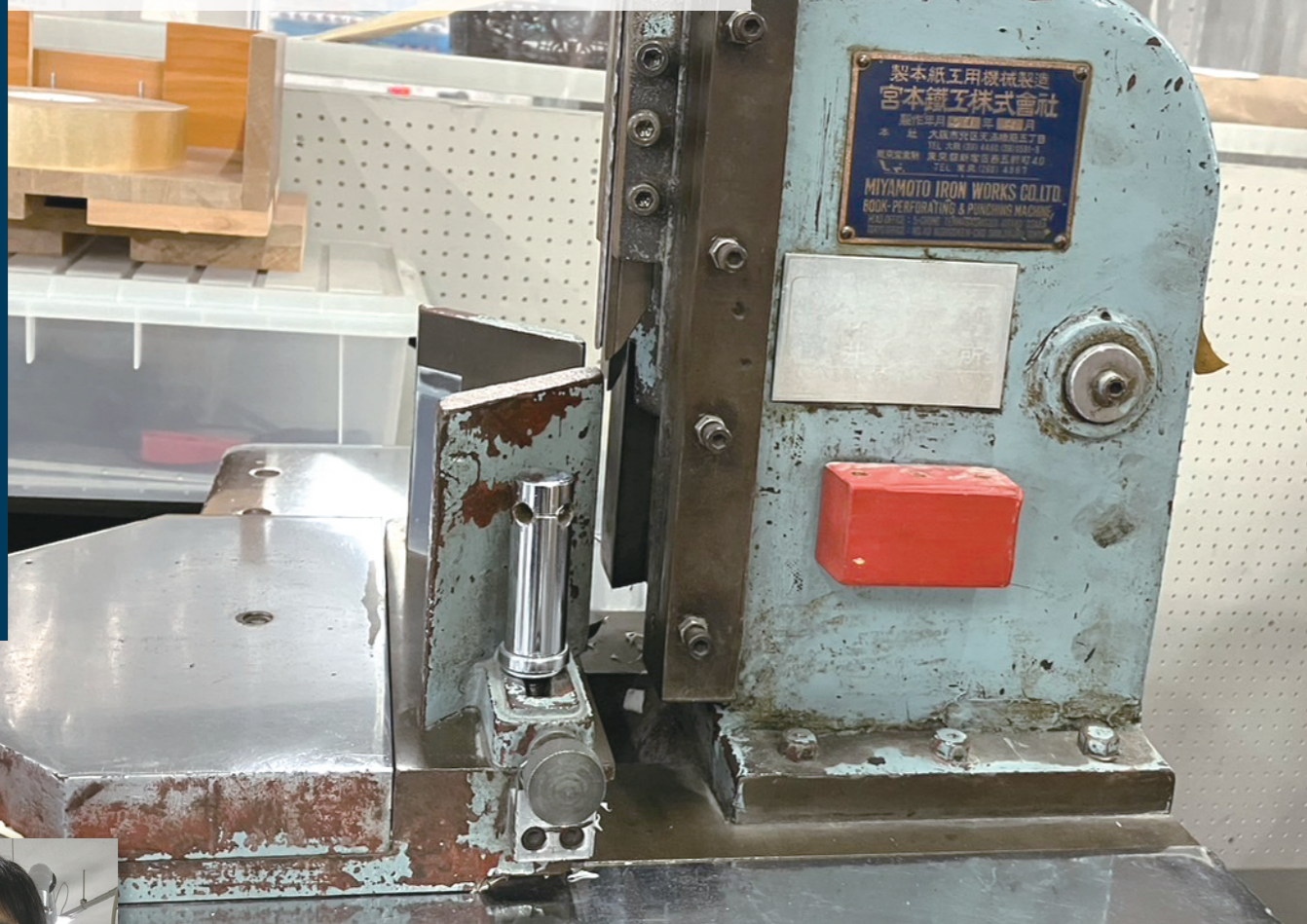
趣味といえるようなものはありませんが、よく美味しいものを食べに行きます。焼き鳥をはじめとした鶏肉を使った料理が好きなので、休日を利用して友人たちと一緒に居酒屋へ行き、お酒を飲みながら他愛のない話で盛り上がり、リフレッシュしています。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：14億円
- ◆ 従業員数：200人

—宮本鉄工角丸機—



私が紹介します!

工場本部
本社工場長
ありまつ けんじ
有松 健二さん

本社工場で数十年にわたり使用されているという宮本鉄工製の角丸機。様々な本や製品の角を丸く整える作業は、熟練の技が必要なのだそうです。本社工場の有松さんに、これまで携わってきた製品や、使用の際の注意点について教えていただきました。

Q. 本や紙の角を丸くカット

Q. どのような機械ですか?

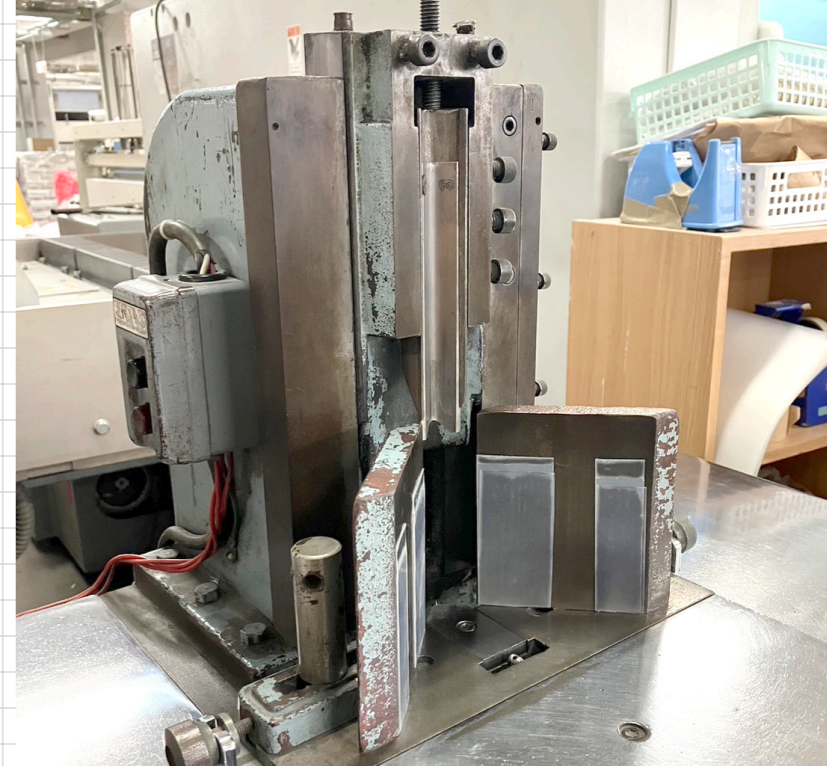
本や紙の角を丸くカットすることに特化した機械です。手帳の中の紙や絵本、小さいものではカードやクーポン券などを加工する際に使用します。機械の仕組みはシンプルで、上から下りてきた刃で、切りたい箇所をまとめてストンと切り落とします。デザインだけでなく、安全性への配慮が必要な、子ども関係の印刷物にもよく使われます。

機械の操作は足で行います。紙を刃の下に持っていき、紙の角をアール状にカット。均等かつ綺麗に切るには、熟練の技が必要な作業です。

Q. 過去にはどのようなもの加工に使用してきましたか?

服のタグや絵本の加工などに活躍

先代社長が現役だった数十年前は、子ども服のタグなどの加工に使っていたそうです。私自身は、絵本や写真の本の加工を担当したことがあります。そのような仕事が定期的にあった時代は、今よりも頻繁に角丸機が稼働していました。現在も工場には二、三台置いていますが、月に1回も出番がないことも珍しくありません。



Q. 使用時に注意するべきことは何ですか?

怪我につながる危険な作業

単純な仕組みの機械ではあるものの、刃を使うので危険が伴うので、怪我には十分注意が必要です。機械の調整のみならず、安全面にも注意し、かつ手先の感覚も必要という、熟練の技術が求められる作業です。紙の置き方1つでカット部分の形が悪くなりますし、本を壁にしっかり当てないと一定の大きさに切れません。教えるにしても、最初は付きっきりで見なければならぬので、基本的には慣れた人たちに任せています。

